

記 後 集 編

◇『学海』第九号をお届けする。平成四年度は「バブル崩壊」の影響が就職戦線にも波及した年であった。そんななかでも本学会の活動は活発に続けられてきた。

◇教員の論文は本号も二本。山口論文は、川中島平方言さらに長野県方言に及んで、長年の体験を通して多方面にわたる考察を加えたもの。方言研究に資されることを願うものである。

大橋論文は、前号を承けて、資料の分析をすすめたもの。先行資料との関連を書誌および言語面から検討している。

◇学生の論文は四本。伝説の起源、一茶の俳諧、樋口一葉、現代日本語と、ジャンルも時代もバランスよく並んだ。創作は小説一編を掲載するにとどめた。詩歌にもすぐれたものが少なくなかったが、とびぬけた作品を選びだすことは困難であった。

◇多年にわたって上田女子短大および本学会のために力を尽くされてきた西尾光一学長が、本年度末をもって退任されることになった。先生のこれまでのご功労にたいしてふかく敬意と謝意を捧げるものである。

◇なお、小生もこのほど本学教員の職を退くことになった。本学会を通じて多くのことを学ばせていただいた。各先生がたや学生諸君にふかく感謝したい。本学会のますますの発展を願ってやまない。

(坂野記)

平成五年三月三十一日発行

学 海 第九号

〒三八六一—二二

上田市下之郷六二〇

発行者 上田女子短期大学

国語国文学会

会長 井出 賢次

〒〇二六八(三八) 二三五二

佐久市中込二一八—二

印刷所 株式会社 樫(へいち)

〒〇二六七(六三) 〇〇一八